愛國婦人

愛國婦人會機關

毎月十日廿五日發行

(定價)一枚參錢 一ヶ月分六錢 三ヶ月分拾八錢 半年分參拾六錢 壹ヶ年分七拾貳錢 全國無遞送料 郵券代用(壹錢又は五厘切手)一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所 東京市麹町區下二番町三十七番地 大日本女學會內 愛國婦人發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄

社説

◎再呈佐藤愛國婦人會主事

相談役 海軍少佐 子爵 小笠原長生

本篇は在佐世保軍艦千代田より小笠原子爵が再び佐藤主事に呈せられたるものなり。乃ち復た之を本欄にをさむ。

閣下よ吾等海軍々人にとりて、九月十七日程感慨深き日は候まじ。既に知し召す如く、帝國艦隊が端なくも敵軍と黄海の北部に衝突し、振天動地の大劇戰を演出して偉功を奏せしは實に九ヶ年以前の今月今日にて候ひき。されば金光燦爛たる軍服に幾個の勳章を懸けたる諸將校が戰勝紀念日として一堂に相會し、祝盃を擧げて帝國の萬歳を三呼すると、例年にも增して盛況を呈し、爽快言ふ許りなく覺えぬれど、飜ッて此戰役に關する他の半面を觀察すれば轉た人生の悲壯の限りに候はずや。縱し名譽の戰死とは申しながら、子に先立たれて頼む方なき老爺老嫗、さては良人に別れ親を失ひける寡婦孤兒等は今日を亡き人の命日と、平常より切に昔を偲び、他人知れぬ涙に袖絞りて又今更の如く新しき歎きに沈みてや候はん。嗚呼其胸中を想ひやれば誰か克く一片同情の念なきを得べき。傾くる美酒も俄に苦く、笑を含みて斃れたる僚友の面影髣髴として目前に現出する心地致候。さりながら之も武門の習ひ、苟且にも帝國軍人の家族たる者、斯程の覺悟あるべきは勿論のとにて、忝くも振天府の御帳に逝ける其人の芳名を留め、長く至尊の叡覽を辱うするとの無上の榮譽を思へば毫も憾むる所なかるべきも、距るもの日に疎しの諺に漏れて、世人が是等戰死者に對する觀念年と共に薄らぎゆくを懷ひ…夜更け人靜まッて後、獨り往時を顧みば人情の浮薄を喞ち其身の行末を覺束なむ時もありなんかし。かゝる際不幸なる彼等に向ッて唯一の慰安を與ふるもの貴會を措いて他にありとしも覺えねば、予は今追懷の情切なるまゝ、適なる戰死者の最期の一話を記して會員諸媛の清覽に供へ、以て彼等遺族者が貴會の慈愛を受くるに十分値ひすることを證明せんとす。こも亦決して無益の業には候まじ。

戰ひ闌なる頃にて候ひき、敵艦鎭遠より放てる三十珊半の大彈丸我旗艦松島の砲台甲板に命中爆發して、兵士の死傷百餘人に及び骨肉飛散し流血淋漓として慘狀を極めしが、會ま司令長官伊東中將其處を過ぎんとせしに、顏面は硝烟に冒されて黑く腫れあがり、頭髮盡く燃えて灰のみ遺り、恰も薄き綿帽子を被りし如き瀕死の兵士の甲板に仆れて呻吟せるがあり。餘りの慘しさに長官彼の傍に立たれしに、彼は忽ち眼を開きて其顏を仰視し「閣下御無事なりしか」と叫び隻手を擧げて立上らんとするも、骨肉既に碎けて意の如くなる能はず、長官之を憐み其手を握りて無事なるを示せしに、彼は微笑を含み「閣下にして恙なくば我軍の勝利疑ひなし」と言ひ畢りて、忽ち絶命致し候。

閣下よ、此兵士が最期の有様を如何に御覽ぜられ候ぞ。予は無限の感慨に打たれ、人間てふものゝ眞に萬物の靈長たるべきを確信仕ると同時に、平生の貴賤よりも最期の瞬間に於て始て其人の品性を定むべき教訓を得申候。昔時歐洲の天地を馬蹄に蹴り群雄を膝下に雌伏せしめたる稀代の英雄ナポレオンは最期に臨みて煩悶の餘り遽にキリストの名を唱せしと傳へらるゝが、茲に至ッて彼が盛時の得意は殆ど其價値を失ひ、人間としての品性は反ッて我一兵卒に劣れりと申すべし。然しながら是れ人生免かるべからざるの弱點にして、死に臨み從容自若たるは精神の修養鍛練を經たる一宗一派の僧侶にても尚難しとする所なるに、學問と申し宗教と申し、さまでの修養もなかるべき一兵士にして、前記の如き絶大崇高の念を發揮し得たるは、彼が腦骨に刻まれたる忠義の二文字、嗟實に此二文字の結果に候はずや。鬼神壯烈に泣くとは眞に斯の如き者の謂ひにして、彼と司令長官と互に手を握れる刹那に於ての兩者の胸中を想ひやれば、何者か涙にくれで候べき。其義は金鐵よりも堅く、其情は蜜よりも甘く、彼は心服せる將軍の健全なるを見、我軍の勝利を信じて安じて瞑目し、此は部下の士が義勇絶倫を實驗して快く其厚志を受く、輕薄末世の歴史中、他に斯の如く勇ましき物語の候か。「吾人は吾人の義務を知る」と呼べる英兵を稱揚して措かざる歐米人に示しやりたき心地仕候。

露國名工の彫刻(最初の歩み)

其他此佳話に劣らぬ物語りは數へ擧ぐるも懶き迄に御座候。半面を敵彈に碎かれながら尚其職務を續け、交代者の來るを待ッて絶命せる兵曹も候ひき。我身の治療を辭して先づ友人の痛苦を救はしめんとせし三等卒も候ひき。肺を貫かれながら兵器箱の鍵を友人に托し、其使用法を敎へて斃れたる鍛冶兵も候ひき。肉身を以て火藥を掩ひ、爲に重傷を受けたる砲員も候ひき。是等の人々が骨肉は碎けて散りて跡なくなるとも、君と國とに捧げつる赤誠の、軍隊及び社會に及ぼす精神的教訓は幾何大に候ぞ。必ずや惰弱の青年輩を奮起せしめて、大和魂の何者たるを了解せしむるの効果あるべきこと存候。

予は更に我兵士の爲に一言を敬愛する諸媛の前に陳述せんとす。そは他なし、彼等が義に勇むと同時に情に厚き一事に候。武夫はものゝ憐を知るとは古來よりの言ひ習らはしに候ものゝ、命を的として砲烟彈雨の中を往來する職に候へば、動ともすれば粗暴に流れ易きは、三十三年北清に於ける各國軍隊の擧動に徴しても爭ふべからざる事實に候はずや。さるが中に我兵員のみは、弱を扶け强を挫きて、云ふ許りなく優しき思想を抱持し居り、既に日清戰爭中、恩賜の烟草を勿躰なしとて敢て使用せず、幾枚の白紙に包みて手箱の中に收め、時々取出しては恩賜の二字を拜し、身の冥加を喜びしとの健氣さは、曾て拙著海戰日錄に記載せる所に候が、同じ頃にて候ひき、貧困者の一少女の齡八歳なるが、渡清軍隊の艱難を聞き、時々父より貰ふ一厘二厘の端錢を集め、十錢に滿つるを遲ちて恤兵部に獻金せりとの記事の新聞紙に載せられたるものありしかば、予は部下の兵士を集め之を讀み聞かせて、國民の兵士を懷ふの情斯く迄深きことを說明いたし候ひしに、敵に向うては羅刹の如き彼等、皆頭を低れて涙に咽び、爾後戰あるに際し「十錢の少女を忘るな」との一語は、屢彼等の間に繰返され申候。貧者の一燈の例證を引く迄もなく僅に此十錢の端錢が千金万金にも優りたる一大寶物となッて現れしは、少女が誠心の致す所とは申しながら、又以て我兵士が優しき心根を知るに足るべし。況てや貴會が熱誠を以て彼等の遺族に同情を寄せ誓ッて之を保護せんとせらるゝに於てをや。多涙の兵士如何で感奮せでやあるべき。次會の戰に於て貴會が軍隊活動の一大原動力たるべきは予の信じて疑はざる所に候。會ま戰勝紀念會に臨みて深く感ずる所あり、歸艦後燈を點じて之を認め遙に貴覽に供す、御一讀被下候はゞ本懷の至りに御座候。頓首

女學校　理事 公爵夫人 近衛貞子

帚木になりなむのちはみとり子の
おくれす生ふる蔭にやあるらむ

駒迎　評議員 南郷柳子

ひさかたの月毛の駒もけふこそは
雲井のにはにひかれいつらむ

電話番町壹千三百三十番

◎本號附錄には廣島支部幹事會寫眞を掲ぐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

◎横須賀海軍下士卒家族共勵會の近況

相談役 海軍大尉 佐佐木高志

本會創立以來去にし六月三十日までの經過の大要は、前號に述べました通りでありますが、其後畏くも
皇后陛下聞し召され、優渥なる御令旨の下に金五百圓を御下賜相成り、又
皇太子妃殿下よりも金百五十圓を賜はり、本會の光榮之に及ぶものは御座いませぬ。誠にもッたいない次第で御座ります。其時本會に於ては、會員一同を集めて思召の程を傳へましたらば、一同感涙に咽んで、仰ぎ見るとが出來ない位で御座いました。

愛國婦人會々員中には同情を寄せられて御懇篤なる寄贈を辱う致し、伯爵夫人眞田絹子殿よりは金拾圓を寄附下されました。又岩手縣支部幹事長北條菊子殿よりは左の書狀を送られました。

拜啓益御清適奉賀候偖本年一月横須賀に於て海軍士官の有志婦人方計劃せられたる海軍下士卒家族共勵會なるもの創成相成たる趣過日愛國婦人新聞にて拜承致候處右は現職下士卒の方々をして後顧の憂を除き隨て忠勤愛國の美風を養成せらるゝ上に於て頗る有益の儀と被存候就ては當支部内愛國婦人會員中器具費等の補助として聊か金員を寄贈致度旨申出の人有之候處如何なる手續を以て寄贈可致哉又物品其他金員等寄附に關し御規定相成たる書類有之候はゞ承知致度候間二三部御送付煩はし度右及御依頼候草々敬具

明治三十六年八月廿六日

愛國婦人會岩手支部
幹事長 北條菊子

右の書狀を直に一同に讀み聞かせましたらば、かくまでも諸氏が同情を寄せて下さるといふとを、深く皆々感じました。此書狀に對しましては、厚く御禮を述べ、且つ問合はされたる寄贈の手續等に關しましては、別段規定も御座りませんが、便宜横須賀鎮守府氣付を以て共勵會々長男爵夫人井上光子へ宛て御贈り下されたいとを返事致して置きました。

又愛國婦人會員にして、陸中國釜石鑛山田中製鐵所管理人横山久太郎氏夫人横山茂登子殿は、斯く邊鄙なる土地に住はれて居られますが、本紙上に於て此會の事を承知せられ、はる／＼鄭重なる書狀を添へて金五十圓を寄贈せられました。勿論海軍部内におきましては、出來得るだけ盡力中で御座いまして、寄附金の高も次第に增加致しました。

茲に七月一日以後の經過の大躰を述べまして、同情を寄せられました紳士淑女諸君、並に本會を江湖に紹介せられたる「愛國婦人」其外諸新聞雜誌に對して、くれ／＼も御禮を申上げます。今や海軍下士卒家族共勵會なる名稱は到處に稱揚せられ、現に同情を寄せられ若くは將に寄せられんとする篤志家續々跡を絶たざるが如き好望を呈して居ります所以は、畢竟紳士淑女諸君の博愛高義の厚きによるものと信じます。目下は會員一百四十名居りまして、基金の增加に伴ひ、隨時器具器械を增備しまして、段々擴張の方法を講じて居ります。會員は益す奮うて業務に勉勵致しまして以て、皆樣の御厚意に背かない樣に心がけてをります。

訪問

◎勤儉談

理事 子爵夫人 谷くま子

左の一篇は此程谷理事が記者に對してものせられたる談話の要領なり、文字の責は記者にあり。

◉婦人の會合に於ける服裝。私は愛國婦人會に出ますに、衣服は毎時も手織の木綿着でありますが、何時の會でしたか奥村さんが皆さんの前で私に向かッて申さるゝには、本會は其主義として質素を旨とする會でありますから、あなたから皆さんに木綿服を着ておいてになる樣に申して戴きたいと申されました。すると其席に居られた或御婦人が申さるゝには、奥村さん夫はいけません。私共本會へ往復する途すがら途中に途寄を致し、懇意な人を訪問したり致しますから、木綿服ではどうも困りますと申されました處が、奥村さんの申さるゝには、然樣に絹が着たい方は別に包みを持ッて來て此會で着替へていらッしたら宜しからうと申されましたが、他の御婦人も木綿服には餘り賛成の意がない樣で、とても私の樣な舊時の教育を受けたものが申した處で始まりませんから、私は強ひて主張は致しませんでしたが、私は木綿を着た儘で訪問して決して恥かしい事はない、反つて威張て往かれると思ひます。訪同の節唯今何々婦人會の歸りでありますがと云うて訪問すれば、先方もなる程と思うて、却て其質素の事を賞するであらうと思ひます。

◉京都支部の質素。私は先般京都支部の大會に臨みました時に、木綿の紋付を一枚持ッて參りましたが、京都は服裝の派手な處と申しますからさぞ立派な着物を皆さんが着て居られる事と思ひ定めて居りました。扨會が始まッてよく／＼皆さんの衣服に氣を付けて見ますと一同木綿服でありましたので是にはほと／＼感心致しました。服裝が已にそんな風で從がッて總ての事も整然と秩序が立ッて、東京の集會に比較して見ますと餘程勝ッて居りまして、私は東京の方がお恥かしいと其席の皆さんにも申しました。尚此事は歸京後直ちに評議員會でも報告は致しましたが、東京も確りやらねば、地方の人から笑ひを招く樣になります。

私は本會の集會は東京を始めと致し各地に於ても木綿服で十分だと思ひます。近日評議員總會もあるさうでありますが、自分は手織りの新いのを調へましたから、是を着て往く積りであります。

◉奥村刀自へ木綿服を贈らんとす。奥村さんも暑中をも厭はず、各地に遊説せられて此程歸京せれ、ら非常に御苦勞でありましたから、木綿の手織を一つ調へて之を贈らうと思うて居ります。老人ではあるし、餘り重くてはいけぬと思うて手製の絹糸を交ぜて作りました。聞けば總裁の宮殿下からも奥村さんに木綿の羽織を下されたさうでありますから、私共が木綿服を贈るのも、不適當ではなからうと思ひます。

◉女學生の服裝。私は多くの學校へ往ッて見た譯ではありませぬが、途中で見ましても、女學生の服裝の立派なのには殆ど驚くの外はなく、木綿服や木綿の袴をつけて居るものは數ふる程もありません。此風潮は四五年來の事でありまして一般に餘程奢侈に傾いた樣に思ひます。此間も「女鑑」記者に話した事でありますが、私の孫娘を下田歌子樣の經營して居られます實踐女學校に出しました。始めは木綿斗り着せて登校さして居りましたが後にはどうしても木綿は着ませぬ。なれども下田先生の始めの御主意は斷じて木綿を着せる事にする、下婢養成學校位の目的で建てたのであるとの御話してしたから、先生の主義は今日と雖も私の主義と同一に相違ないと申して懇々申し聞かせましても他の生徒間の制裁がやかましく、「貴女これは木綿の御手織ですか」などといやに批評するさうで私は遂に根氣負けを致し、且つ餘り干渉するもよくないと思ひ又多分先生の方でもお負けなさッた事と信じましたから、孫の申す通りに任しましたが、元來學問を修業する間に絹物を着るなどは大變な間違ひと思ひます。智識を求めるが爲に學校に出るので、着物の善惡は無用の事であります。然るに社會一般が然樣な風に傾いて來たのは歎息の外ありません。

◉木綿を着ても貧乏なり。私は主人なり家族なりに着せますものは、大概手織りに致し、養蠶も致しますから絹糸も交ぜて着せます。其他萬事を質素に致してやッて居る積りでありますが、夫でも貧乏致してをります。家は御覽の通り粗末で、疊もこの通り汚うございます。然るに他家の奥さんは多分の衣服なり飾物なりを新調して、外出には馬車に乘られ交際も派手になさいます。どうして斯樣に出來るのでありますか、私共は國服の外はなく、其事を考へる度毎に私共は自分ながら意氣地がないものだと思ひます。

習字

よろづよりも手はよくかゝまほしきわざなり。歌よみ學問などする人は殊に手あしくては心劣りのせらるゝを、それ何かはくるしからんと云ふも一わたり理りはさることながら猶あかず打あはぬ心地ぞする。宜長いと拙くて、常に筆とるたびにいと口惜しう云ひがひなく覺ゆるを、人の乞ふまゝにおもなく短冊一ひらなどかき出てみるにも、我ながらだにいとかたはに見るしう、人や如何に見るらんと恥かしく胸痛くて、若かりし程になとて手習はせざりけむと、いみじうも悔しくてなむ。

(本居宜長)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

説

◎下女待遇談

文學士　下田

此一篇は下田文學士が記者の問に對して話されたる要　なり。文字の責は記者にあり。

○下女よりも主婦。　下女を優待すべしとの問題よりも、先づ主婦を優待する問題が先かと思はれる。日本の主婦は殆んど下女と異ならぬ取扱ひを受けて居る。主人の權力が盛んであッて、只命之隨がふを以て婦人の徳と認められ、主人が如何なる專横なる振舞を爲すも、之に默從して居らねばならず、下女よりも多く働き下女よりも多くの責を負ひながら、殆ど一家に於て無權力の有樣である。日本の主婦程善く働きながら待遇の惡い者は他にあるまいと思ひます。家庭に於ても權力のなき婦人は、社會に於ても權力なく、從がッて一般婦人の勢力と云ふものが社會に認められず、社會の進歩に著しき障害を與へる次第でありますから、下女の優待よりも先だッて主婦の優待論を主張せねばなりませぬ。

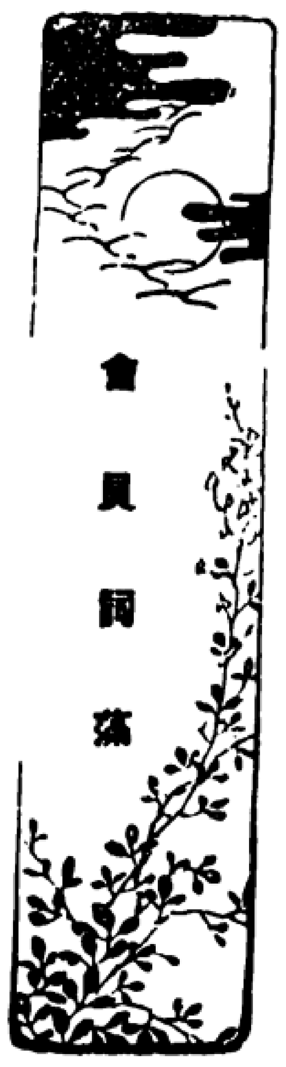
○主婦よりも夫。　主婦を優待するに付いて、先づ其夫の觀念から改良して往かねばなりませぬ。夫は兎に角男子であり力も強く智惠も先づある方でありますから、夫たるもの丶心の持ち方次第で、如何樣にも一家は改良されます。故に弱者を保護すると云ふ考へて、主人は主婦を優待せねばなりませぬ。理論から申すと、一家は夫と主婦との協同から成立ッて居るので、一家の浮沈は悉く二人の身の上に集まッて來る道理でありますからして、主婦たるもの丶權利を全く認めぬと申す筈はない次第であります。故に主婦を下女の樣に心得て居る夫は甚だ心得違の人で、斯樣な夫は外に出ては獨立する事は出來ず、常に人に使はれるものとなッて、長官なり、又は社長なりから、恰も下女の樣に取扱はるゝ人でありませう。故に使はれる人よりは使ふ人の方で餘程注意せねばならぬ事と思ひます。

○下女を待遇するは主婦の爲なり。　私は前に下女よりは主婦をよく待遇する事を申しましたが、また一方から考へますと、下女を待遇するのは、主婦自身の權力を高める一階段であらうと思ふ。其次第は下女でさへかくの如き優待を受けるとすれば、主婦は尚更其れ以上の優待を受けねばならぬとの觀念は誰にも起るもので、つまり自然に主婦自分の權力を高める譯になるから先づ以て下女をよくしてやらねばなりませぬ。朝から晩まで骨の休まる暇もなく下女を奴隷の樣に使ひ回さねば恰も一家の損失になるかの如く考へてをる主婦は、自分自身も又主人に對し、奴隷の如き扱ひを取けても其權方を主張する事が出來ませぬ。而已ならず家族間殊に子供共は皆其父の母に對する其主婦の下女に對する有樣を見習うて、人を使用するは如此ものなりとの觀念を引起し、社會に出て丶人を使ふの身分となるも、同情ある人となる事は出來ないと思ひます。

○外國に於ける下女の權力。　外國に於ては下女も勞役を供して勞銀を得る工女と同樣で、その勞力使用に對しても、法律で以て使用時間の制限が立ッて居ります。例へば夜間十時以後は使用する事が出來ぬ、其時間後は下女の自由であるとか又は時々日曜日の午後には休暇を與へるとかと云ふ風に習慣上定まッて居る。又下女と雖も獨立の人格を以て居る婦人であッて、家の外に在ッては、娘であるから、外國では他人が下女を呼ぶには、ミッス（英）、フロイライン（獨）、マモアゼル（佛）、即ちお孃さんの敬稱を付する慣習になッて居ります。又家の年少子供に對しては總て名は呼捨てあります、之は下女でも子供から見れば年長で、年長のものが年少のものを呼び捨てにするは一般の慣習であるからであります。又外國では下女と令孃とは公園邊では見別けが付きません。長く外國に居るに從うて自然其分界が知れて來ますが、一寸見ただけでは、容易には知れませぬ。

伊國名工の作れる女神の塑像

○下女の懇親會を開く可し。　外國では例せば昨年の英國の戴冠式の際の如き皇后陛下が臣民の内の下女を一堂に會せられて、饗應される事がある。夫は下等の勞働者に慰安を與へると云ふ慈善的の考へよりして、催さるゝのである。日本に於ても下女の爲に一日の慰安を與ふる目的を以て、貴婦人方が懇親會を開いてやらるゝがよからうと思はれます。小僧懇親會と云者はあるとか聞きましたが下女の爲の懇親會はまだない樣である。是等は慈善家の進んで營まねばならぬ事業であると思ふ。外國では身分のある婦人方が自から慈善函を携へて、停車場等にて憫れなものを救ふために金を取立てやるものが往々あッて、少しも恥とせぬのみならず、全く社會に盡す高尚なる職分と認めて之を行うて居る。それだから只馬車に乗ッて往ッて人を指揮してやるのみでなく、自分が自から進んで其事に當り、饗應等をもするのが今日の社會では緊要なる事と思ふ。



秋の思ひ

福岡縣　會員　村島常子

人みな「秋はかなし」と悲しくいへど　おのれ面白しと答ふ。そは秋たつあしたより、八千艸に露の白玉おきそはり、朝日のかげさしうつろひ、野邊には花すゝき打まねき、うき世の事をしらぬ顏したるもおかし。桔梗はむらさきのゆかりの色をあらはし、女郎花は名にもそむかずくれる姿を見せたり。又常磐なる松の木の間をもる月の光り、ふり出て鳴くすゞ虫の聲とり〱おもしろからぬはなし。嗚呼このときこそ、四時中にていとゞ人の心をなぐさめ樂ましむるぞと思ひて、かくはしるしぬ。

みやび會員詞藻

書　岐阜　白川穣子

人の心の闇を照す書よ、此書ばかり、世に尊きものはあらじ。さるは、いと古う、よめきたる卷物の軸の玉、表装の錦、いと品高く、其の作者はたれ、筆者は某などいふやうにて、人の秘藏にかかる類は讀みて益するよりも、見て樂しむかたなるべし。年久う閉かざりし箱の隅より、虫ばみきれ〱になりたるをさぐりいでゝ、やう〱かたはし讀み得られたるが、いひしらずいみじき文章なる等、いとうれしくもまた、いま少しくあらましかばと、あたらしうさへぞおぼゆる。すべて古きはなつかし。今の新刊の書も亦よし。皆事新しう、今の世におくれざらんには、上なき心の鏡なり。さるにいかなる人なりけん、今の書は洋紙なれば、早う裂け破れ、讀むに眼の疲勞すると甚しと、おとしめられたり。そはさるとながら、その取り扱の如何によりて、千里の差あると論をまたず。五六冊積み重ねて、寢牀の手枕にかへ、猫なしつるとてはつぶてに投げ打ち、或はものうち食ひつゝ、ぬれ汚れし指もてはた〱と背たつばかり強くうちかへしなどなさば、いかでよく保ち得らるべき。心して讀まば、さまで眼の害とならざらましを。あるはまた、端を折りかへして枝折りにかへ、麗しき表紙にあり〱と、指の跡の黑うおされたるなど、見るからに心地惡しく、かゝる扱をなす人は讀むにも亦うはべのみ眼はしらせゆくならんと、おしはからるゝもうたてくぞある、淸らかに持ちなされたらば、その人がらさへうち上りてぞ見ゆべき。寶の山に入りても、有るにまかせて、あなづらば、つひに手をむなしうして歸るとやらむ、玉にもまさる尊き書とても、おろそかにとり扱ひ、あだに見過しなば、つひに得るときなからん。げに大切になさまほしきは書籍にこそ。

籬槿　岐阜　白川穣子
きのふよりは今朝はすくなくさきにけり盛やすきし槿の花

同　廣島　有元光子
うるはしく數多さきたる槿にあれし垣ともみえぬけさ哉

同　奈良　植島ひさ枝子
なか〱にあれしかきれのゆかしきはさく朝顔のあればなりけり

秋くさの花　秋田　伊藤泰子
すゝむしのこゑまつはかり八千草の花さかりなり山さとの庭

草花露　徳島　尾方次子
うすきぬの袂そよきてふく風に千くさの花の露そこぼる、

庭萩　岡山　田中かつ子
なき父の去年うゑおきし我庭のかきの糸萩今盛なり

萩さきければ友の許へいひやる　長野　清水しげ子
蟲にはまたいたられとさきそめし今日みに來ませ庭の萩原

閑庭虫　岡山　小坂田春の子
山かげの草のいほりはひろもなほつゆけき庭に虫そ鳴なる

松虫　大阪　霜野多榮子
風そよく萩の上葉つゆみえて秋きにけりと松虫のなく

靈祭　靜岡　鈴木いし子
靈祭る人の涙をなき人はいつくのかけにみそなはすらん

同　伊豆大島　篠原虎子
なき親のみたま祭りに秋草の花のかす〱折りてたむけん

檐上待月　愛知　五味綾子
月まちてしばしたゝすむ檐の上みにしむごとき秋の風ふく

月　福岡　金原しな子
影きよきこよひの月をなかめつゝ涼みますらんなつかしの母

同　東京　田代よし子
家人は早いねたれとまとの戸をとさしかねたりもち月の夜は

月前泉　新潟　前崎照子
夕月夜岩もる水にかけみえてかへるといひし人もとまりぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎南洋の婦人

龍江義信

本篇は久しく南洋に滯在して此頃歸朝せられたる中央公論記者龍江義信君の談話を筆記したるもの也、譯誤りの責は記者に在り。

私の往ッて來ましたのはニューギニアでありますが、私は彼地の方に六七年も居りましたので、ニューギニアのことに付いては隨分調べて參りました。また今度此地へ歸る前に、獨逸領のビスマーク群島の方へ行ッて、自分の目的の爲に種々のことを見て來ました。が、今日はそのビスマーク群島の中のニューアイルランドの婦人に付いて、奇習の一二を御話することに致します。

ニューギニアの土人は男子も女子も純裸躰で、只婦人が腰の邊に布のやうなものを卷いて居るが、それも皆々さうであると云ふ譯ではない。此等の土人は腕に腕輪を箝め、足に足輪を箝める位か、衣服としては何も着けて居りませぬから、其美を爭ふと云ふ點に付いては、身躰に入墨をして衣服と同じやうな摸樣を描いて居る。髪は極縮れて丁度縮緬を解いた糸のやうにヂリ〳〵になッて居る。それがニューギニア人の特徴です。で、其髪が伸びるに從ッて毛と毛が結合ッて下の方に垂れない。ずッと廣がッて笠のやうになッて居る。婦人は其處へ日本人が簪を挿すやうに、天然の木の葉を以て頭を飾り、或は鳥の毛を挿したりする。其他人間や鳥獸の骨を彫刻して簪のやうなものを拵へて頭を飾るです。それから前に申しました入墨をする。是だけが身躰の裝飾でありますが、此土人は檳榔子を嚙む爲に齒が黒くなッて居る。併し日本人が鐵漿を付けたのとは大變な相違がある。

それから此ニューアイルランドの土人はカンニバルと云ッて、人を喰ふ人種です。從ッて非常な野蠻國である。然るに其國の娘の躾け方はどうであるかと云ふと、非常に變ッた、世界に類のない遣り方である。娘が七八歳又は十四五歳になると、其娘を或一種の家に入れるです。一種の家と云ふのは何で出來て居るかと云ふと、元來土人の家と云ふのは入口だけあッて、窓も何もない暗澹たる家である。其中に更に小さい家を造るです。形は圓錐形で高さが七尺位、下の直徑が四尺位なものである。其家の中には段々があッて、其上の方に娘を坐らせて、下の方には食物を入れることになッて居る。それは何で造るかと云ふと、竹を割ッて、それにパンダナスと云ふ木の葉をぐる〳〵と捲き、それで這入り口のやうなものを拵へ、椰子の葉を以て觀音開のやうなものが出來て居る。其家の總ては悉く木の葉でぐる〳〵卷きにして、空氣も通はぬやうてある。それで早い所は七八歳、遲い所でも十四五歳、少くも結婚時期に先つこと一ヶ年位になれば、其家の中に入れるのです。其娘を入れる時には豚を殺して親近の者を招いて御馳走をする。日本で言へば男に對する昔時の元服のやうな禮である。而して娘を入れて仕舞ふと、兩親だけが監督者として娘の小屋の側に居ッて、他の家族は別に一家を構へて別居させると云ふことにしてある。其間は七年八年と云ふ永い時日であるが、兩親を除くの外は一切娘と交通することは出來ない。兄弟であらうが、親類であらうが、娘に向ッて話をすることも出來なければ、顏も見られない。娘は小屋の中に這入ッて居ッて、決して出て來ない。唯水で身躰を洗ふと云ふやうな時には、戸外に出ることがありますが、それも深夜でなければ出ない。つまり身躰を人に見られないと云ふのが主意のやうに思はれる。娘の這入ッて居る場處は直徑四尺の所から食物を置く所を取ッてありますから、三尺位しかない。其處て膝を崩して手枕で寄り掛るやうにして、ジッとして居りますが、七八年の永い間夜でも晝でも足を伸ばして寢ると云ふことは出來ない。誠に窮屈な横にも縱にもなれない場處に裸躰で這入ッて居るです。此小屋の名はアッテゲーナバックと云ふのですが、土人の習慣として、如何なる人でも此小屋の內部を見ることは出來ない。併し私は獨逸政廳の方から兵隊を借りて、其兵隊を率ゐて巡ッて歩きましたが、丁度其處は非常に政府を恐れて居る際でありましたから、酋長に話して其小屋を見せて貰ッたです。私は先づ扉を排して內を見ると、素より眞暗な所に黒い人間が居るのですから分る筈がない。燐寸を擦ッて見ると娘は何もせずにじッとして居るです。始終暗い所に居ッて光線に當らぬから、瞳孔が開いて大きな眼になッて居る。色は幾分か淺黒くなッて普通の土人よりは多少白くなッて居ッたです。で、娘が此小屋に這入ッて居るのは節操を守るとか色を白くするとか云ふよりか、他に何の理由もないので、修業のためであッて卵のために這入ッて居るのでないから、食物の如きは一番宜い物を娘に供給すると云ふことになッて居る。食物と云ふのは椰子の實とか、タローと云ふ芋、ヤムと云ふ芋、斯う云ふ樣な種類のものである。

（未完）

◎各地特殊の料理

（五七）萌入らずの飴

信州岩村田町　山西てい子報

糯の上白壹升に水七升を入れ、焦がさぬやう、吹きこぼれぬやう、之を粥に炊き、米粒の潰れるまで能く煮て冷し置き、それに麹を壹升入れて能く交ぜ合せ、一晝夜の間其儘に置き、布袋にて糟の無いやうに搾り、文火にて糊を煮るやうに、始終かきまぜながら、焦げつかぬやうに好き程に煮つむるなり。

（五八）鮟鱇の肝虀

静岡縣沼津町　會員某報

先づ鮟鱇を常の如く庖丁して、其の肝を美濃紙で包み紙捻でしばり、壞れぬやうにして湯の煮立ち居る鍋の中へ入れ、次に肉の着いた皮や骨を入れ、次に正身即ち方言にいふ鰹身の處を入れて湯煮をします。正身の處が略煮えて、少々生の所もある位の時を見計らひ、（熟く煮ると身が壞れていけませぬ）正身を第一に鍋より取上げ、其の次に皮や骨の部分、最後に肝を取上げます。肝は熟く煮ませぬと腥くていけませぬから、丁度鍋へ入れる順と出す順とは反對にします。扨、骨付の處は骨を拔去り、皮と正身と共に細かに切り、ザッと水をきり、再び鍋に入れ、今度は水を入れずにから煮にし、肉の壞れぬ樣に注意して攪きまはし、肉より出る水氣の全く乾いてなくなッた時、醬油と味淋と砂糖とを少しづゝ入れ、更に薄鹽で鹽梅し、別に赤味噌を厚く蒲鉾の板などへ塗りつけて燒き、前に湯煮をして置いた肝と共に擂鉢に入れて擂り交ぜ、煎り置いた肉や皮の冷めない中に虀へるのです。是は當地の名物で、誠においしいものとなッて居ります。

（五九）鱈田麩

新潟會員　某女報知

鱈を能く洗うて一時間許水に浸しおき、鍋（土鍋の方殊によし）に湯をわかし、鱈を入れてざッとゆで、取出して骨を去り、肉の處ばかり布巾（絹切の方殊によし）に包み、淸水で洗うては搾り〳〵すると七八回以上も重ねる時は、雪の樣に白色となります。之を干陰にして貯へ置く時は、何年經ッても其味は變りません。何時でも料理に用ゐるとができ、誠に重寶です。之に卵子を少々入れ、醬油味淋で煮つけますと風味のよろしいものです。或は其まゝ酢をかけてもいたゞかれます。

（六〇）酢豆

宇都宮市　愛讀者報

先づ鞍掛豆を一夜水にひやし置き、翌日笊にあげて水を切り。鍋の湯の煮立つをまちて、右の豆を入れ、ザッと煮て丼に入れ、酢と醬油とを適宜に合せ、然して十分にかけ、一夜漬け置きて食るのてございます。是は誠に手輕て淡泊な料理て、酒の下物には頗るよろしく、サッパリとして美味うございます。殊に一月などは客に出してよろしく、寒き時は三四日も置けますし、次第に酢がしみて一層味がよくなります。

鞍掛豆と申しますのは、大豆より大きく平たくして、中程に黒く鞍を掛けた樣な形の豆です。是れが最もよろしう御座います。然なくば、靑豆と申しまして、大豆より大きい豆がありますが、是れでもようございます。煮加減はあまり、煮過ぎますと、美味う在いませんから、豆の生ぐさみが去ればそれてよいのです。必ず水から煮てはいけません。

酒匂の別莊にてよめる　評議員　中山幸子

きのふけふまちにまちたる村雨の
ふるから小野にすゝ虫のこゑ

ふりそゝく一村雨のあしたより
衣すゝしく秋かせのふく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉評議員臨時總會　來る卅日午後一時より九段坂上偕行社に於て評議員臨時總會を開く筈なり。

◉評議員會　暑中休暇も已に了りたるを以て來る十月より再び開會すべき評議員會の日割は左の如し。

十月七日　（第一水曜日）　第四の組
十月十四日　（第二水曜日）　第五の組
十月廿一日　（第三水曜日）　第一の組
十月廿八日　（第四水曜日）　第二の組

◉相談役會　本月十二日本部樓上に於て相談役會を開けり。出席者は岩倉會長始め谷理事岡部清浦兩相談役佐藤松平門司の三主事及び佐々木海軍大尉等にして、專ら事務所新築の計畫に關する件を協議したり。

◉廣島支部幹事會の景況　廣島縣支部幹事長たりし江木仲子氏熊本支部へ轉任につき、其送別を兼ね、同地支部幹事會を去七月九日廣島市國泰寺村なる赤十字社支部の樓上に開きたり。折柄歸省中なりし本會會計監督佐藤正氏も臨場せられ一同席定まるや、佐藤氏は本會及び各支部の情況を詳細に陳べ、江木知事は夫人に代りて各幹事の從來の盡力を謝し、且副幹事長並に各幹事より支部の總會を開くべしとの注意ありしも、是は新任德久幹事長に讓るを適當と思慮すと云々と述べられ、次に評議員山口師團長夫人も一場の挨拶あり、式終りて紀念の爲庭前に於て一同撮影の上解散せり本號附錄寫眞は即ち其時のものにして、氏名は別項に揭ぐるが如し。

◉石川支部幹事會の景況　石川支部にては奧村刀自遊說を機とし、村上幹事長の尠からざる盡力と大島本多の兩評議員等の斡旋により非常の會員を得、九月一日の調によれば、金澤市のみにて五百六十四人各郡部を合して千九百七十二人の會員を得たるよしなるが今先月廿九日金澤市金谷館に開きたる同支部幹事會の景況を記さんに、來會者は本多評議員長男爵の祖母君始め幹事長副幹事共約三十名、外に支部評議員の方々知事以下書記官參事官市長助役其他募集員事務員等三十餘名合して六十餘名の出席者あり。開會の始めに於て、互に氏名を知るの必要上より先づ一々氏名を呼上げ呼ばれたるものは辭に應じて挨拶することゝし一同を互に紹介し、扨村上幹事長は一同に對し從來種々盡力の勞を謝し、尚將來一層本會の爲盡瘁せられたき希望を述べ、次に佐藤事務員は現在會員數を報告し渡瀨市長は一層盡力の上市部だけにても、千名以上の會員を募集したしとの希望を陳べ、終りに村上知事は本會の旨趣を賛する辭を述べ婦人は質素儉約を旨とすべしと說かれたり。閉會後茶菓の饗應あり、午後四時頃解散せり。

◉熊本支部の郡市長招待會　熊本支部にては去にし五日午後四時より副幹事長飯田夫人及び原、河内山、德永の三縣屬は幹事長江木夫人の邸に會し、目下參集中の各郡市長を招待し、本會擴張の件に付協議する所あり。先づ江木夫人の挨拶あり、夫より江木知事は夫人に代りて、本會々員の日々增加し漸次盛大に赴きつゝあるは前幹事長及び副幹事長幹事以下會員の熱心の致す處なるも、畢竟各郡市長諸氏幫助の然らしむる所にして感謝に堪へざるなり。併し郡市長の夫人にして未だ入會せられず、又幹事となり居られざる方も有之由なれば、皆此際入會の上幹事となられ盡力せらるゝ樣希望する旨を述べ次に河内山事務員は支部の現況を報告し、終りて茶菓の饗應ありたり。因に云ふ、目下同支部の會員數は特別會員四百四十二名、通常會員千六百八十四名、外に贊助員八百六十名あり。本部へ送金高已に二千二百餘圓の多きに及び、第一回の遺族救護金は本年三月交付せしが目下第二回の救護金交付上に付遺族の狀況取調中の由なれば、不遠また交付の運に至るべし

寫眞附錄の人名（寫眞面の順序）

河野政一　田中孝友　伊村則久　三橋勝到　佐藤正　江木千之　新妻駒五郎　小島源三郎　河内山熊太郎　高田武太郎　高井半九

石津圭介　門川正之　賀屋錄子　新妻ミヨ子　大久保セン子　芳賀キヲ子　世古アイ子　岩崎ミナ子　伊村サン子　酒井ミチ子　渡邊タツ子　三浦梅子　稻葉山江　伴キク子

中村春子　三橋敬子　上田種子　矢野ミヱ子　一瀨スミ子　山口キヌ子　江木仲子　佐藤猶子　藤田シゲ子　永田カツ子　高洲キク子　永島ヒチ子

◉本部新築費寄附金　本會規則第四條により、費途指定寄附金として、本部新築費用の一部に供せられたしとの趣にて、石川富山兩縣より、左の寄附ありたり。

金百圓	石川縣能美郡安宅町	米谷霽香子
金貳拾圓	金澤市　男爵夫人	本多品子
金貳拾圓	同　男爵夫人	横山彰子
金拾圓	同　男爵母堂	長寬子
金拾圓	石川縣能美郡小松町	增田伊作
金拾圓	富山市	富山婦人會
金五圓	同　本派別院内	婦人敬會
金五圓	同　大谷派別院内	婦人敬會
金四圓	同　大谷派別院	尼講中
金拾圓	富山縣魚津町	魚津婦人會

◉長與博士夫人の寄附　東京胃腸病院長醫學博士長與稱吉氏夫人延子氏は去にし八日先考醫學博士長與專齋翁の一年祭に相當せるを以て、知人へ法饌を供すべき所、時候柄衞生に注意して之を廢し、其費を以て本會へ金五拾圓を寄附せられたり。尚其他に傳染病救濟金庫へ金百貳拾圓、日本醫學圖書館へ金百圓を寄附せられたる由。美擧と謂ふべし。

◉近衞本會相談役　公爵近衞篤麿氏は過日本鄉なる帝國醫科大學第一醫院外科病室に入院せられてより、病狀は追々輕快に赴きしも到底手術を施さゞるべからざるを以て、去る十七日午後四時より醫學博士佐藤三吉氏の執刀主任、同金杉英五郎氏の助手にて患部切開の大手術を行はれしが、手術は二十五分間にて結了し、引續き經過頗る良好、體溫脈搏等何等の異狀を呈せず、立會ひの醫員親族諸氏孰れも安堵の思ひありしと云ふ。吾人も亦其全快の一日も速ならんことを祈るものなり。

◉奧村刀自　石川富山兩縣の遊說を終へ去にし十五日午後二時卅分歸京せられたり。新橋迄出迎へられたるは岩倉會長代理、島津理事代理及び清浦錬子、松平須磨子、片山鶴子、高木鐐子、濱尾作子、中山幸子、山脇房子、佐藤猶子の各評議員なりき。

◎奧村刀自石川支部遊說日記（承前）

七月廿五日　金澤を發し河北郡津幡町に向ふ。支部より佐藤事務員案内として同行せらる、北方夫人青山技師其他會員數名停車場まで見送られたり。午前九時四十分津幡驛に着す。幹事山根外婆子、野尻田中の兩郡書記及び會員數名出迎はれたり。一同の案内にて同町油屋旅館に投ず。午後三時より大谷派の弘願寺に於て演說す。聽衆約千二百名、即時十名の入會者ありき。

同廿六日　午前八時十分同町を發し高松村に向ふ。郡長山根氏夫妻野尻郡書記夫妻津田郡書記等同行せられ、同五十分高松驛に着す。村長羽田氏外有志數名並に小學校長澤村氏は高等四學年生と共に同停車場に出迎はれたり。午後三時より同村光專寺に於て開會す。聽衆約千五百人、即時入會者七名あり。當日開會につき同村の特に注意せられたるは辻廣告にして、即ち左の如し。

首唱者　奧村女史
愛國婦人會趣旨演說會
於高松　光專寺

之を近村に數百枚揭示したり、此日の盛會なりしは此廣告の力によると明かなり。夜間は宿處丹羽文二氏宅に於て、各學校教員全部及び羽田村長其他有志家數十名の爲に一席の講話を試みたり、此夜慈善的に無料宿泊を與へられたり。

同廿七日　午前八時高松村を發し、羽咋郡羽咋町に向ふ。郡書記助役其他有志家數名停車場迄見送られたり。同九時四十分同町に着す、栗山幹事（郡長夫人）飯貝幹事及び須田郡書記等停車場に出迎はれたり。午後三時より本念寺に於て演說す。聽衆約二千人、即時入會者十貳名。又同寺門徒より成れる佛教法話會の世話人川崎和三郎、篠田彌左衞門の二氏外數名と町長和田一郎兵衞氏とは同會員の婦人拾五名と共に（合計二十三名）入會せられ、川崎氏等拾數名は閉會後各手配して同町内を奔走して、勸誘につとめ殆ど徹夜せられ、更に翌日も夕刻迄周旋せられたる結果、遂に約百名の新入會者を得たり。此夜同寺に無料宿泊を與へられたり。

（次頁へつゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎奥村刀自石川支部遊説日記（前頁の續き）

同廿八日　午前九時同町を發し腕車にて同郡高濱村に向ふ。同十一時同町に着す。町長雄谷氏の外、砂山早川兩郡書記は前日より出張幹旋せられ、栗山郡長も退廳後出張せられたり。午後二時半より演説す、聽衆約千二百名、即時若干名の入會者あり。閉會後町長助役郡書記諸氏は羽咋町の例に倣うて各處に勸誘を試みられたり。一行は前夜の約を履んで再び羽咋町に歸り又々本念寺に於て演説す、聽衆は婦人多く約五百名なりき。此夜再び慈善宿泊を與へられたり。

同廿九日　同町を發し七尾町に向ふ。栗山飯貝兩幹事、篠田氏、川崎氏夫人其他有志家數十名停車場迄見送られたり。午前十一時同町に着す。富田幹事山口會員外數名高安池田兩事務員と共に停車場に出迎はれ、一行は導かれて同町常福寺に入る。午後三時より同寺に於て演説す。聽衆約千名。此夜同寺は一行に慈善的宿泊を與へられたり

同三十日　午前十時大風雨を冒して七尾港より濱船に投じて中島町に到り、町長山本氏の邸に入る。郡書記池田田畑の兩氏同行せられ、富田郡長は職務上同行し難きを以て一行に後れ陸行して來られたり。午後三時より中島小學校階上にて開會す聽衆約八百名、爲に梁材撓みて墜落の虞あるを以て演説を中止し、男子小兒及び老人の入場を謝絶し約六百名に減員して午後五時半無事閉會せり、夜間山本氏の請求により、有志家並に女教員等に對し一場の講演をなせり。此夜同邸に慈善的に宿泊を許されたり。

同卅一日　午前八時中島町を發し輪島町に向ふ。濱船にて和倉を經て穴水港に到り更に腕車にて六里餘の道を行くなり。午後七時輪島町に着す。鳳至郡長丹羽幹、同夫人滿壽子（幹事）及び久保勝田の兩幹事は郊外二里の處に出迎はれ、一行は導かれて長樂寺に入る。當地は從來會員僅に三名（何も幹事）のみなりしに、今回遊説に際し勝田幹事の良人量平氏は非常の盡力にて、數日間に六十四名の入會者を得られたりと聞く。由て着後直に同家を訪問して謝意を表したり。此夜同寺に宿す。但し炊事万端勝田幹事負擔せられ、更に下婢一名を滯在中付添はしめられたり。

八月一日　午後二時より長樂寺本堂に於て演説す。聽衆約一千人即時若干名の入會者ありき。當日諸般の事に幹旋せられたるは丹羽郡長加藤町長及び丹羽勝田久保の各幹事浄守郡書記等にして、勝田量平氏父子は特に盡力せられたり。

同二日　午前九時輪嶋町を發し穴水町に向ふ丹羽勝田久保の各幹事伊藤郡視學浄守郡書記等同行出張せられたり。出發前同町に於て百餘名の會員を得たる旨の報あり。午后〇時半到着新谷旅館に投ず、午后三時より弘世寺にて演説す。聽衆約千五百名。當地は從來一名の會員もなかりしに、開會前通常會員九名贊成員數名の申込みあり、閉會後特別通常合計三拾貳名、贊成員四拾餘名を得たり。町長助役及び穴水警察署長諸氏大に盡力せられたり。

同三日　午前六時氣船にて宇出津町に向ふ、郡長郡視學郡書記同行せらる。同九時半着、午後三時より長樂寺にて演説す。聽衆千餘名の中都合により男子を謝絶して婦人のみ四百餘名に傍聽を許したり。即時入會者二十餘名。從來會員一名もなかりしに富田町長井東助役近藤警部諸氏大に盡力せられ好結果を奏せり。（未完）

雜報

◉黄海戰捷紀念會　第九回紀念會は此程築地水交社に開かれたり。午後一時振鈴一聲、次で澄碧鏡の如き池の畔なる古松の下より奏樂起るに連れて、控室にありし三百餘の海軍將校は續々食堂に入り、思ひ〱に着席して樂聲止むや、山本海軍大臣は謹嚴なる口を開いて「諸君杯を擧て天皇皇后兩陛下及皇太子殿下の萬歲を祝します」とて萬歲を三呼し、會衆一同之に和し、やがて立食の宴は開かれ、宴半にして伊東大將の發聲にて帝國海軍萬歲の三唱ありたり。何等餘興無かりしも開會中の歡聲は溢るゝ許りにして、會衆銘々より十分なる祝意は表されたり。重なる參會者は山本海相、伊東井上大將、柴山鮫島東郷日高各中將齋藤片岡有馬出羽松永坂本肝付各少將の外、吉井伯、榎本子、新聞記者等なり。同社は本年一月より工事を起して輪奐新なる美を極め、今迄室内狹隘の爲掲ぐる能はざりし四枚の黄海海戰實景の大油繪は同役戰死將校の肖像畫と共に美事に掲げられ、大に注目を惹き、會衆何れも切なる懷舊に禁へざりき。斯くて一同十分の歡を盡くし、其中第二の黄海海戰を試みんなど、醉餘の元氣に任せて放言して散會したるは午後二時半なりき。

◉平壤戰勝紀念會　去にし十五日は平壤戰勝紀念の十周年なれば、午後四時より靖國神社に於て紀念祭を執行し、偕行社に於て宴會を開きたり場の中央に陣歿者の姓名を列記したる紀念幅を掲げ、香華を捧ぐる等牙山會の陽氣なりしに反し、極めて打しめりて見えたるが、就中黄州に於て戰死せる町田中尉の孤兒（十一）が一坐の中に加はりたる、五十餘名の列席者をして袖を濡らさしめたり。立見中將より來れる『當日を祝し併せて當日あらんとを祈る』との電報を大森副官が高らかに朗讀したるときは、覺えず拍手歡呼したりと云ふ。

◉コール氏招待會　濠州の紳士コール及び同夫人令孃の招待會を去にし十五日紅葉館に開きたり來會者七十餘名、流石に四海同胞主義を唱ふる人の招待會だけありて、其中には板垣退助兒玉源太郎齋藤實曾我祐準岩谷松平鳩山和夫諸氏等種々の異分子を含みたるは近頃珍らしき會合なりき。席上發起人總代として田口卯吉氏の挨拶あり、次でコール氏答辭を述べ、人類單一説は余が少年の時より研究し來りたる所にして、近來益す之を確信するに至れり。濠州は過剩なる他國民を入るゝの義務あり、否諸國民は濠州に入る權利ありと説き余は孰れの人種たるを問はず皆同一となすと熱心に主張せり。次でコール夫人は正義の章を來會者に配付し、一同散會したるは九時頃なりき。

◉動物虐待防止會例會　去にし十五日午後四時より神田一橋學士會に開會、來會者四十餘名、左の件々を決議したる後晩餐を共にし、卓上井上圓了氏の妖怪視察と工女虐待の話姉崎正治氏のラスキンとワグネルの話、高楠順次郎氏の犬の子生埋實見の話等あり、猶食後に副島八十六氏の瓜哇視察談ありて、九時過散會したり。

一、十月下旬に大會及び演説會を開く件
一、動物虐待防止に關する懸賞文を市内小學校に募集する件
一、小き雜誌を發行する件
一、動物虐待事項調査の件

◉女子教育會の新設　某學士主唱となり、日本全國に於ける女子教育家を集めて一の團躰を組織し、女子教育に關する事項を互に研究し又雜誌をも發行する趣にて近日其趣意書を各女學校に配布し贊同を求むると云ふ。尚ほ詳細聞き得て次號に報道する所あるべし。

◉大日本婦人教育會　例會を去にし十九日華族女學校内幼稚園に於て開き、巖谷季雄氏の碧鳥奇談及び瀬川文學博士の講話ありたるよし。

◉體操學校女子部　同校女子部にては、地方より延着者等の爲此際若干名の生徒を募集する由。

◉護國幼年會　彼の元寇紀念碑建設首唱者を以て名ある湯地丈雄氏は本年二月全國幼年生徒及び之に準ずる幼年を奬勵し、一人に付一ヶ月金一錢以内を貯金せしめ、以て水雷艇幼年號を製造し、國家に貢獻せしむる所あらんとて、護國幼年會といふを設立し、福岡市及び高松市神戸市に事務所を設置し、相變らず暖席の暇なく東奔西走しつゝありと云ふ。

◉獨逸の消防芝居　獨逸の消防設備は非常に進歩し居る事なるが、此程消防芝居と云ふものを行ひたりと云ふ。其仕掛けは非常に大仕掛にして先つ消防の沿革を知らしむる爲に、古代よりの消防器械を用ゐ漸次文明の器械の使用に移り、最後の幕に至り人命救助を演じたるが、其幕の前に、觀客に「勿驚」との注意を與へおきさて幕を開けば舞臺一面火炎に包まれ、建物の中に一人の婦人が身を焦されんとして悲鳴を擧げて救助を求るあり。其樣眞に迫りて觀客は何れも膽を冷し、今にも燒殺されんとする夫の婦人を注視し居る間に、騎馬の消防夫顯はれ來り、救助袋を差擧げて此婦人を火炎の中より救ひ擧げたる手際には、滿場拍手の音暫時は鳴りも止まざりし由。

◉露國の郵便配達には賄賂を要す　露國には賄賂盛んに公行せられて、巡査は勿論鐵道の役人にまで賄賂を與へざれば事の運ばぬ趣なるが、最も甚だしきは郵便配達にまで賄賂を要する事也。曾て日本の紳士某氏が同地滯在の節、夜間電信の配達を受けたる處、配達夫が今は夜更けて居るとて二度も繰返して云へる故、不思議に思ひて見れば彼は手を出して、夜間なれば金を呉よとて、賄賂を要求し居たりと云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉旅行には必ず寶丹を懷中すべき最近實例

曩の日無事歸朝せられたる河口慧海師は、彼の秘密國なる西藏に於ける苦心慘憺の旅行中屢々寶丹に由りて、生命を全うせられたるとは載せて時事新報（明治卅六年五月中より同師の談として引續き掲載）にあり、同紙購讀諸君は疾に諒知せらるゝ所ならん、又去四月汽車衝突の際外國婦人の氣絶されたりし時、直に回生せしめたる事實あり（大坂毎日新聞掲載）然るに今又左の報道に接せり、幷は、左に記する事實によりて明なりとす。此れと云ひ彼と云ひ寶丹の應急救生に奇効ありし特報頻々たり。斯の如きはもと拙家一個に關する事に過ぎざれども、我國民の深切に富ると、其藥効の特殊に感じたるの一例に至りては、聊か自負するに似たりといへども、亦以て起死回生の効空からざるを證するに足れり。故に謹て寶丹愛顧の諸彥に稟告す、幸ひに此意を亮了ありて、ます〳〵光顧を賜はらんことを希ふと云爾

東京市下谷區池之端仲町廿七番地
寶丹本舖　十世　守田治兵衛

前畧扨突然に御座候へ共沓谷瀧次郎儀過日來博覧會のため大阪へ出張致居候處昨夜帝便にて左の如く申越し候間不取敢御通報申上候

本月十一日午前七時三十分新橋發汽車に乘込候て、一外人と米原驛まで同車致し候處、同外人儀東京出發の際より、非常の腹痛にて氣分惡く殊に氣閉ぎ候て困却の由被申聞辨當も不喰好きな煙草も喫まずと申居候ゆゑ（至つて日本語通のよし）瀧次郎儀幸ひ旅行用に致し候寶丹を同人に服用爲致候處途中に於て寶丹の效能著く忽ち全快致し候に付同外人殊の外喜悅此上なき由同人は米國人にて今般歸國の途中の由に御座候猶右寶丹にて全快致候御禮の印として米原神戸間の無料乘車券を申受候由實に不相替寶丹の效能數萬なるも、眼前に於て一外人を救助したる故に瀧次郎事も驚入申候、早速前條貴家樣へ申遣し度と申越候に付き不取敢御通報申上候間、何卒御了承願上候、寶丹の效能に對しては細事なりとも、海外人を汽車中にて救助致し候儀故何卒御營業上御參考の端にも相成候へば重疊と存上候、決して空言に無之實際に御座候、實に弊家にても寶丹愛用者に付一同大悅に存居候、先づは不取敢前條申述度如此に御座候匆々敬具

尙右之寶丹は去月中小生大阪へ出張の際事務員其外へ進呈致し候爲に十五錢の口分寶丹四十個貴店に於て相求候分の殘餘に在之候間爲念申添置候也

第卅六年六月十九日　美術袋物商　島本德兵衛拜

守田治兵衛樣
貴下

尙寶丹益々海外へ輸出に相成候事疑ひなし

本店
卸部　東京日本橋區長谷川町貳番地
美濃磯本店
電話浪花二八五九
電略ミイソ

小賣部
本郷區本郷五丁目十五　電話下谷一四一五　美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町廿貳　美濃磯淺草支店
芝區新櫻田町九番地　(美)小田商店
牛込神樂坂町二丁目八　(内)伊澤商店
四ツ谷傳馬町一丁目　(内)伊澤支店

衛生印　酢

●鶴印は色澤濃厚香味醇和
●龜印は香味淡泊酸氣強し

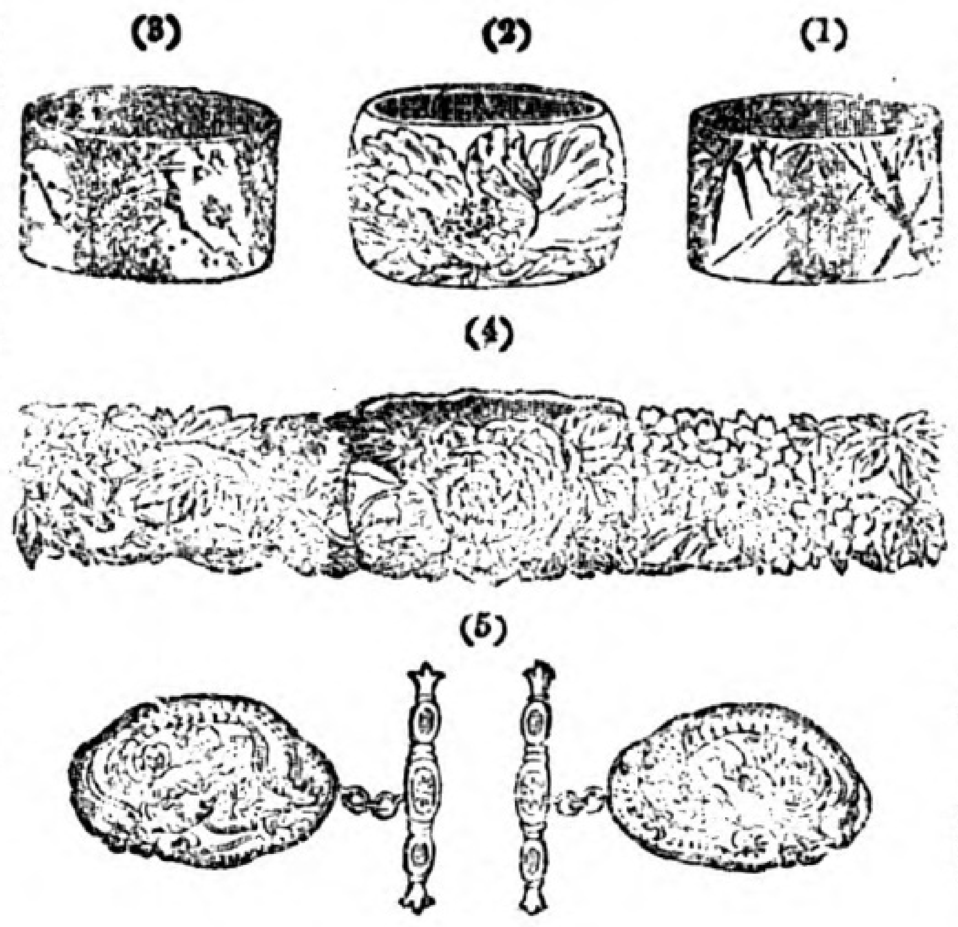
右は本社の特製にして夏期炎熱の候と雖とも腐敗變質の憂なく衛生上有效の良品に有之候

東京市本所區柳島横川町三番地（電話下谷一四八三番）
日本醋酸製造株式會社

同市日本橋區本材木町二丁目十五番地（電話本局二一〇六番）
東京市内販賣所　内田商店

●地方賣捌所御望の方は本社へ直接御照會あれ

新製指環及手釦



(1)價廿一圓八拾錢……廿二金三匁付片切刻
(2)價廿七圓八拾錢……同……高刻
(3)價二拾圓八拾錢……同……片切刻
(4)價五拾六圓五拾錢……同四匁付……高刻
(5)價卅二圓九拾錢……十八金三匁付高刻

東京市京橋區尾張町貳丁目拾六、七、八、九、番地
時計寶玉貴金屬美術品及銃砲火藥商
天賞堂
電話新橋（特一三三三・一五三三）

天賞堂出張所々在地
東京市神田小川町　●横濱市　●名古屋市　●大坂市　●熊本市　●長崎市　●小樽

第五回内國勸業博覽會
受領
第貳等賞
第參等賞
褒狀貳通

營業販賣品目
半ゑり帶あげ
下締帶止浴衣
すゝめ形
ゑり治形
まげ入ゑり治
新橋竹川町十二
電話新橋二〇二七

正四位勳三等
醫學博士　三宅秀先生著
大日本女學會發行《日本女子大學校敎科書》

家事衛生

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁　定價金六十錢　郵稅金六錢

此書は文部省學校衛生顧問内務省中央衛生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑託により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五編ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき樣懇切に說示されたる世に類なき家庭主宰者の寶典なり

●賣捌所　東京神田區一橋通町七　有斐閣

醫院案内

婦人科產科榊病院
院長　醫學博士　榊順次郎　每日午前診療
副院長　醫學士　久保德太郎　每日夕刻診療
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

耳鼻咽喉科院
院長　ドクトル　山上兼輔
四谷區本村町三十七番地　電話番町七三〇（士官學校前）
診療時間　每日午前八時より十二時迄午後六時より七時迄〇日曜大祭日は午後休療往診の需に應す

東京小兒科院
駿河臺西紅梅町（電話本局一九五五）
院長　醫學博士　瀨川昌耆

東京產科婦人科病院
院長醫學博士　濱田玄達
副院長醫學士　辻高俊
神田駿河臺袋町（電話本局壹四三四）

内外科泌尿生殖器科
醫學博士　佐藤進
醫學士　佐藤佐
同　佐藤恒久
同　佐藤達次郎
醫學博士　田中苗太郎
醫學士　阿久津三郎
醫學士　吉井明七郎
醫局員　菅野徹三
同　前田利雄
同　笠間大作
各科專門ノ醫士分擔シテ診療ニ從事ス
每週月水金午後一時ヨリ貧困者ノ爲メ施療部ヲ設ク
順天堂醫院（本郷區湯島五丁目お茶ノ水）
電話本局三六九番

◎◎最新療法◎◎
瘰癧　切開ヲ要セス根治ス
〇〇心臟病　〇〇脚氣　專門
神田區三崎町三ノ一　西通リ二十五
千葉内科院

診療　院長出診時土曜日午後、入院診斷之上隨時應需
内外科眼產婦人科耳鼻咽喉科皮膚病梅毒痳病
外來入院隨時
深川平久町角
深川　養生病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

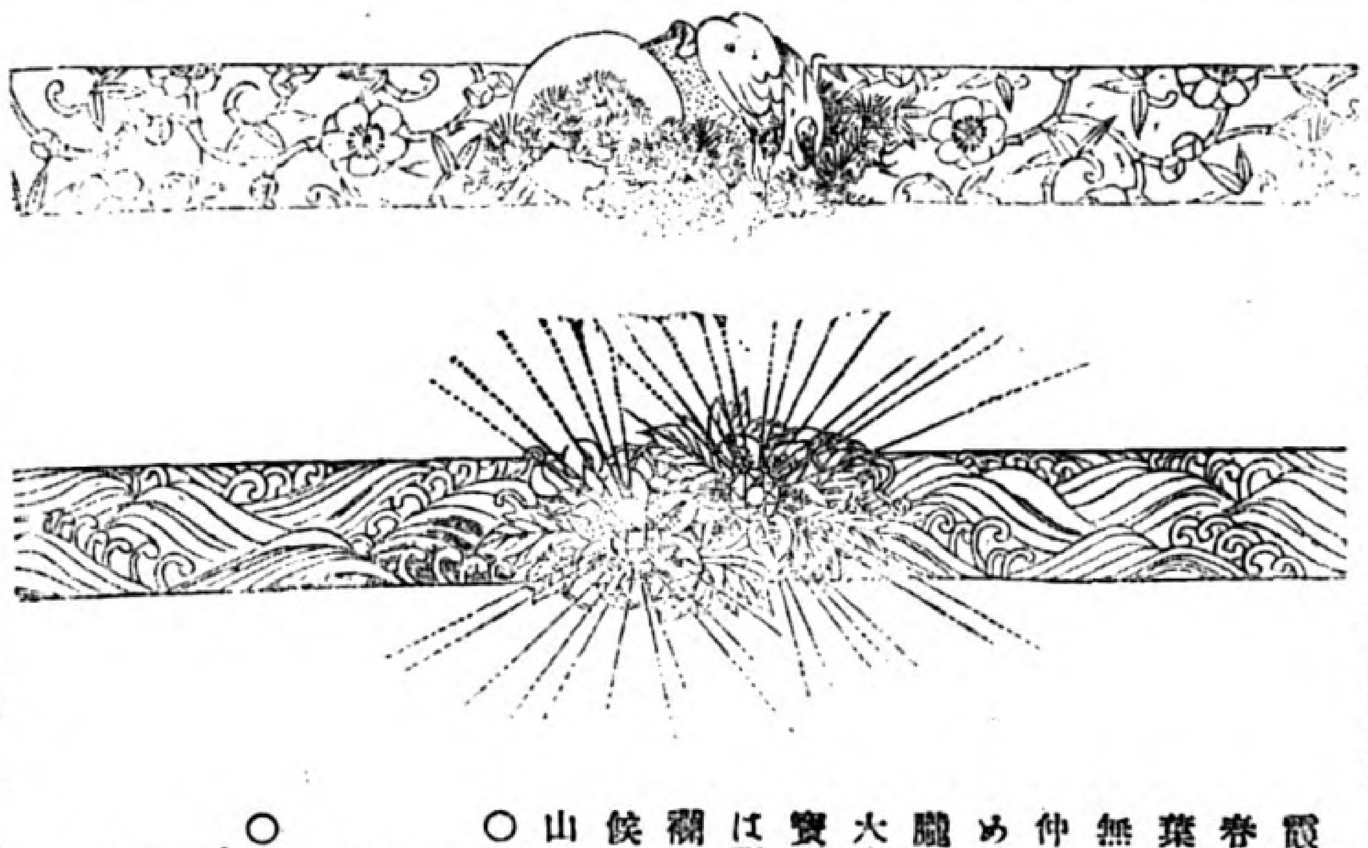
◎東京堂　神田表神保町三番地

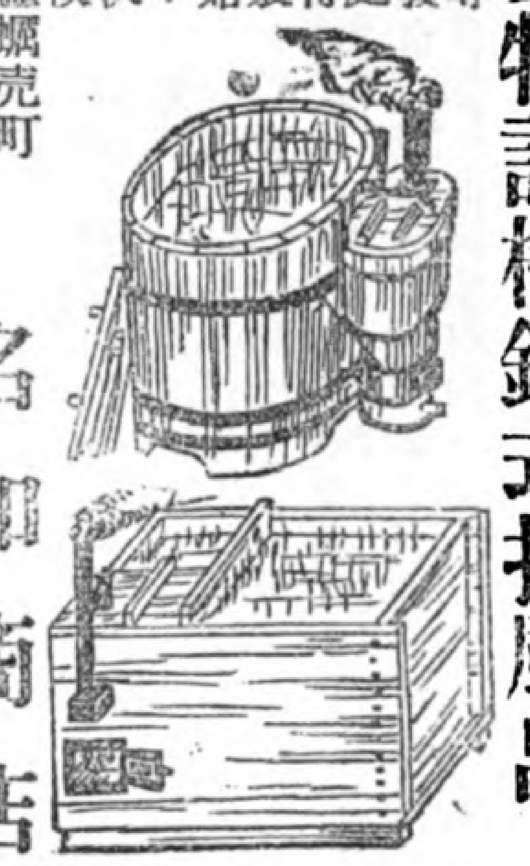
◎東海堂　京橋區銀座四丁目

紳士貴婦人用
高等香油 チエリーオイル
定價　大瓶八十五錢　中瓶四十五錢　小瓶二十五錢

東京市日本橋區本町二丁目十五番地
日本直輸入元
高橋初次郎
(特電話本局四一二三番)
◉全國到る處の小間物化粧品賣藥店に販賣致居候

坪内文學博士校閲
通俗世界文學
全部五十冊毎冊正價廿錢◉六冊壹圓拾四錢◉十二冊貳圓廿貳錢◉廿五冊四圓六拾錢◉五十冊九圓◉郵稅毎冊六錢
發兌元
東京神田裏神保町
冨山房

貴金製金具附帯留

霞の帯か花を飾る春着の裝ひ扨は青葉若葉の夏ごろも無て叶はぬ帯留に仲秋の月より光りめてたき金銀赤銅朧銀の彫刻は美術大家の意匠を凝し寶石類を嵌入し組は纐纈の縫取り金襴錦繡珍さまく～候へば富士の雪の山々御用命奉願候
○金製金具附價　十二圓十五圓廿圓六十圓迄
○銀赤銅朧銀等之金具附價　三圓五圓以上八圓十圓位迄
東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎
電話新橋五百五十一番

專賣特許機鑵式据風呂
弊店多年專賣特許居候處發賣致居候般專風呂製造今般据風呂賣開始許發賣間益々仕候候立伏御引懇願候奉願候て
日本橋區蠣売町貳丁目十五番地

名和商店

帝國貯蓄銀行
銀座一丁目河岸通り
電話新橋八一六番
本郷一丁目　本郷支店
飯倉四ッ辻　飯倉支店
赤坂一丁目　赤坂支店
四谷大通り　四谷支店
品川一丁目　品川支店
横濱吉田町　横濱支店
牛込神樂坂　神樂坂支店
神田須田町　須田町支店
兩國米澤町　米澤町支店
淺草雷門前　吾妻橋支店
代理店　日本橋坂本町　田中銀行
◎一錢以上何程にても御預り致し御便利に取扱申候
◎毎月證書扱の御預け金は全月分の利子を付け申候

諸學校女生徒の寄宿に應じ夜間英語を敎授す
近藤女子監督家塾
東京市小石川區春日町四十三番地

料理法講習會會員募集
去る九月十六日より和洋及支那料理講習を開始せり志望者は至急申込むべし
麴町區下二番町
成女學校

補珍名著文庫
西行法師詠　幸田露伴先生校訂
第八編　山家集
風來山人作　饗庭篁村先生校訂
第九編　風流志道軒傳
一編　芭蕉翁繪詞傳　附句集
二編　近松淨瑠璃　三種
三編　雨月物語
四編　小三金五郎　娘節用
五編　今昔物語選
六編　近江縣物語
七編　狂言二十番
正價一冊廿錢上製廿八錢郵稅四錢
發兌　東京冨山房

婦人界臨時増刊　九月五日發行　◉　定價三十錢　郵稅二錢

遊學案内　東京の女學校
この遊學案内東京の女學校は坊間に有りふれたる案内の如く無意味に規則をよせ集めたるものに非ずして都下各種の女學校々長講師の履歴教育上の意見生徒の成蹟卒業生の身のふりかた及世間の評判など一々實地に就て確實に取調べたるものなり故に本書によりて修學の目的を立てらるゝものは決して其方針を誤まるとなし世の父兄よ子女勉學の學校を選擇せんと欲せば先づ本書を繙き其の如何を了解して後に決定せらるべし
發兌元
東京本町　金港堂書籍株式會社

第三卷第九號
九月十五日發行
をんな
毎月一回十五日發行
毎號紙數百四十頁
定價十五錢全國無遞送料

本誌の特色
◎本誌の目的は、婦人をして常識に富み、世態に通じ、以て其本分を完うせしめんことを期するに在り。されば其所説、新に流れず、舊に泥まず、一宗一派に偏らず、而も世に阿りて、徒らに俗流の歡心を迎へず。◎本誌は輕佻浮華の弊風を避けんが爲に、表紙口繪など、不要の裝飾を省きて、專ら記事の精選を努む。◎本誌に收錄する所は、普通の婦人雜誌に掲載する、文學上家政上の記事のみに止めずして、●科學の大意を掲げて、學理の概念を得しめ、●和漢洋名著の綱要を掲げて、諸書の涉獵に便せしめ、●法制理財等の事を平易にものして、世態に通ぜしむ。◎本誌は、野卑なる言語及び劣等なる戀愛文字を避け、下品なる廣告を掲げず。◎本誌は勤儉貯蓄の美風を奬勵せん爲に、毎號雜誌貯金切手を附して、其模範を示す。◎本誌讀者は、みやび會員となり、其歌・文を本會に添附して、名家の批評添削を受くることを得。

發行所
麴町區下二番町三七
電話番町(一三三〇番)
大日本女學會

麝香獸印

ムスク香水
本石町四丁目 芳香藥種問屋 松澤商店

全國各學校徽章賞牌ハ弊店ノ獨專業ニ有之候　價格表ハ御報次第呈送ス
日本帝國徽章商會
東京市麴町區飯田町三丁目
電話番町八百五十七番

補缺募集
本校女子部生徒ニ缺員アリ志望者ハ至急申込ムベシ
九月
麴町區飯田町九段坂下
日本體育會體操學校

愛國婦人を「並」學廣告取扱な女義講んに
神田區千代田町　博報堂　電話本局一四四番
京橋區尾張町　弘報堂　電話新橋八五一番
京橋區八丁堀中町　一星社
日本橋區上槇町　萬年社　電話本局一一一五

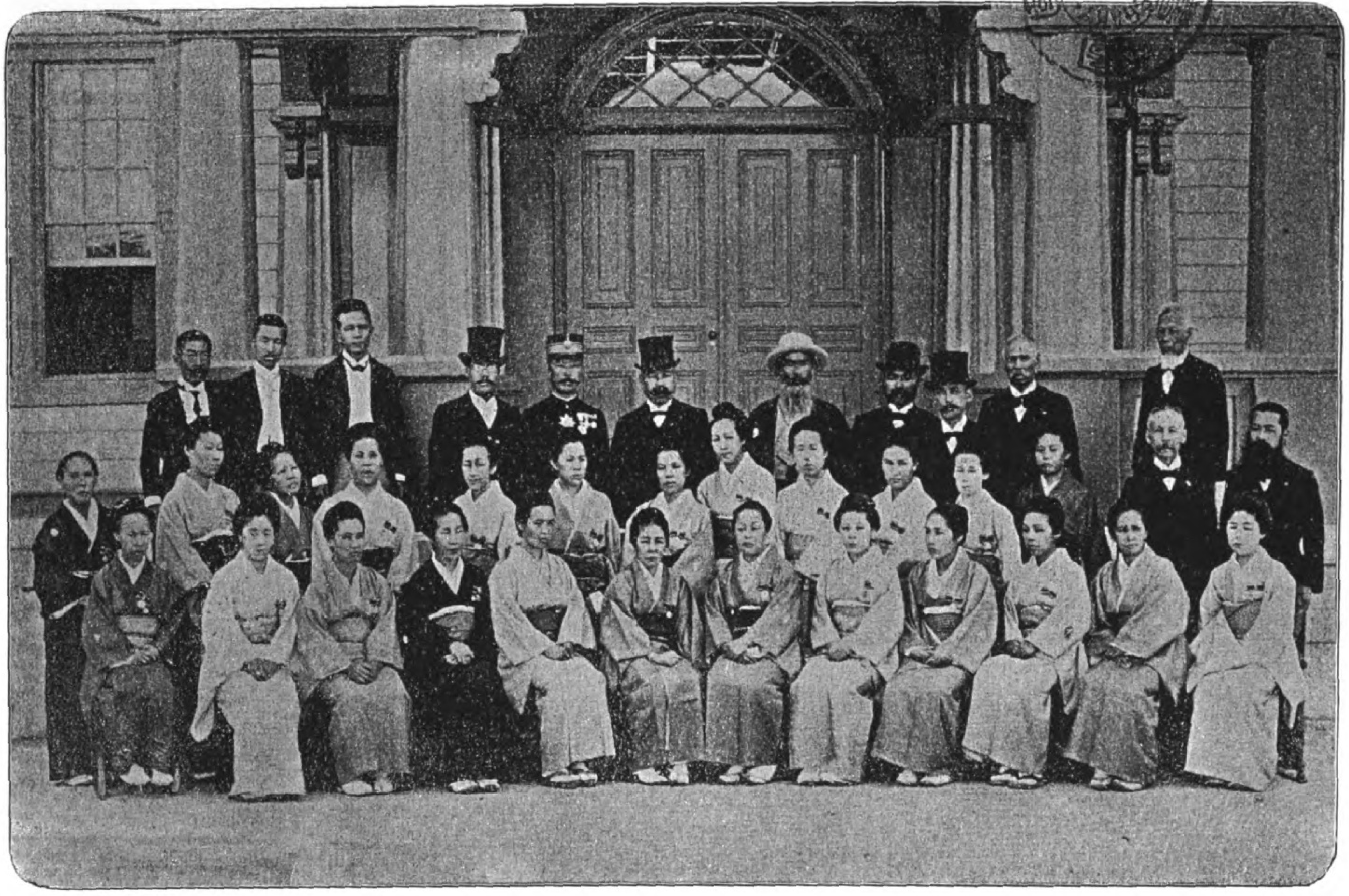
明治三十六年九月廿五日發行(毎月十日廿五日二回)

發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　大日本女學會内

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治三十六年九月廿五日發行(每月十日廿五日二回)
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

愛國婦人第三十八號附錄



愛國婦人會廣島支部幹事會寫眞

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 大日本女學會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN